

【テーマ】

「オンライン授業のこれから」

【主催】事務システム分科会

活動報告

日 時：2024年10月11日（金）13:30 -17:00
 場 所：成蹊大学 + オンライン（Webex）（ハイブリッド開催）
 出席者：79名

1. 研究内容

コロナ禍を通じて大学教育は大きく変化しました。オンライン授業は新たな可能性を拓きましたが、課題も残ります。今回の分科会では同志社大学の山田礼子先生をお迎えし、オンライン授業への取り組みやこれからの活用・展望について講演（オンライン講演）いただきました。

後半は教学系と情報システム系にわかれて意見交換を行い、他校の取り組みや事例や各大学が抱えている課題などを共有する場となりました。分科会の最後はキャンパス見学です。本年9月開設のラーニングコモンズなど竣工間もない新棟をご案内いただき、閉会となりました。

（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

- 13:30 ○開会挨拶
- ご講演
 「今後のオンライン教育の展開と可能性：COVID-19下の経験から」
 同志社大学・社会学研究科・学部教授、高等教育・学生研究センター長
 山田 礼子 様
- 質疑応答
- 賛助会員2社からの情報提供
- ・ニューノーマル期における新たな講義スタイル ～「ライトボード」のご紹介～
 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション IT推進部 コンテンツ企画チーム
 - ・多様な授業運営にかかせないLMSのご紹介
 FUJITSU 文教ソリューション Campus-Xs 学修支援
 富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 P&Eビジネス戦略室
- 意見交換（グループ）と全体共有
- 施設見学
- 17:00 ○閉会挨拶

「オンライン授業のこれから」

10月11日（金）、事務システム分科会が、成蹊大学の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

コロナ禍を通じて大学教育は大きく変化しました。今回は分科会のテーマを「オンライン授業のこれから」として、同志社大学の山田礼子先生に、オンライン授業への取り組みや、これからの活用・展望について講演（オンライン講演）いただきました。後半は賛助会員からの情報提供の後、教学系と情報システム系のご担当者に分かれてグループを作り、意見交換を行い、その後全体へ発表しました。

成蹊大学の吉田氏（事務システム分科会運営委員）の司会で進行し、同氏が「私立大学連盟のもとに設置された総合政策センタープロジェクトから、今年3月、『オンラインを活用した大学教育の現状と深化・拡充』という報告書が発表されました。本日はこのプロジェクトの委員を務めていらっしゃる同志社大学の山田先生よりご講演いただきます。ぜひ最新の知見を共有いただき、情報交換もさせていただければと思います」と開会の挨拶を述べ、その後講演に移りました。

■ご講演：

「今後のオンライン教育の展開と可能性：COVID-19下の経験から」
同志社大学 社会学研究科 学部教授、高等教育・学生研究センター長
山田 礼子 氏より

○日本のオンライン授業の導入率は低いですが、5カ国全体で見るとGCの取得にはオンラインが高効果

まず、2020年末から2021年初頭までに行われた大学基準協会調査をご紹介します。日本の453大学から回答がありました。「オンライン授業の課題と今後の活用について」は、9割近い大学が今後も活用したいと回答しました。一方で教職員の負担や学生の学習意欲については、課題と捉えている大学が多かったです。

2022年と2023年に、同様の内容を日本私立大学連盟が調査しました。2023年度講義科目については約8割の大学が、オンデマンド型／同時双方向型の授業を実施。演習、実験等科目については約5～6割にとどまり、全体としてオンライン授業を残しつつも対面型に回帰していることが見て取れました。

2つの先行調査から、対面とオンラインの組み合わせを質の保証とつなげること、教員の負担の軽減、人的・物的支援の確保が非対面型（オンライン）授業の課題だと分かります。

次に、大学教育学会2023年会員調査結果をご紹介します。この調査結果から、コロナ前後で資料の配布方法が、大きく変わったことが分かりました。LMSの活用が進み紙での配布は半減しています。一方で、講義内での区切りを入れる等の工夫はそれほど変化していません。レスポンスカードは紙からLMSへ変えた大学が多く、ICTに関連する技術やツールの活用が増えていると言えます。

次に5カ国調査におけるオンライン授業の評価の比較をご紹介します。2022年7月に、米国、豪州、日本、韓国、台湾の学生・大学院生、計約3,000人にアンケートを取ったものです。大学生が受講している授業形態については、日本は突出して多く対面式を実施しています。韓国も小規模授業や実験・実習授業で対面式がやや多いですが、日本以外は概ねオンラインが主流となっています。オンライン授業の形態は、どの国もオンデマンド型（動画教材）、オンデマンド型（資料提示）、同時双方向型の3つが中心ですが、日本の導入率は他国の半分程度に留まっています。大学生の各授業形態に対する評価を見ると、豪州、米国は比較的好意的に評価している学生が多く、日本では学習効果やコミュニケーションの点で他国より否定的です。

一方で日本は「孤独を感じる」といった回答は低く、米国や豪州は否定的意見も強い。言い換えると、日本の学生は、オンラインに対して肯定的意見も多くないが、否定的意見も強くはなく、オンライン式を続けてほしいという思いは他国と変わらないと言えます。また5カ国全体で見えた場合、教室規模にかかわらず現時点でのGC（Global Competency）の習得度はオンライン活用が最も高効果を与えていました。5カ国調査をまとめると、このようなことが言えます。

- Withコロナ期において、日本が5カ国の中では対面式の授業の活用度合いが高いこと、台湾や米国ではオンラインが積極的に活用されていることを確認
- GCの獲得に必要なと思われる能動的・協働的な学びの機会を、特に台湾や米国ではオンラインを活用しながら効果的に取り組んでいる可能性が示唆される。日本も授業形態の特性に応じて、授業内容や授業方法を工夫しながら、こういった学びの機会を提供することがより求められるのではないか

ここで国内事例を紹介します。早稲田大学人間科学部通信教育課程は、以前からオンデマンド型を多く取り入れており、動画は10～15分ごとに細分化され聴講しやすい工夫もなされています。教育支援の仕組みもあり、卒業率は6割程度とのことです。社会人対象のグロービス経営大学院大学や名古屋商科大学大学院では、課題解決型学習を提供し、授業内での発言が重視されます。そのためオンラインの双方向型も含めたリアルタイムの授業が重視されています。また関西大学では、動画の収録・編集・配信システムを全学で導入し、LMSと連携させシームレスな学習環境を構築されています。そのほかの事例等詳細はこちらの資料をご覧ください。

[報告書「オンラインを活用した大学教育の現状と深化・拡充」の公開について | 一般社団法人 日本私立大学連盟 \(shidaiaren.or.jp\)](#)

オンラインを活用した大学教育の可能性と活用に向けての課題

1. グローバル教育

2. リカレント教育

3. 文理横断教育

4. 地域連携・大学間連携

5. 企業との連携

6. 高大連携

7. フィールドワーク

8. 診療や実験の疑似体験

1. オンライン授業に対する学生の学びの体制整備

2. オンラインを活用した新たな教育の学習成果の可視化の方法の確立

3. オンラインを活用した新たな教育の有効性についてのデータ収集



国への要望として制度改正・緩和

- ・60単位の上限緩和の普遍化
- ・単位の実施化や評価体制を構築するための支援
- ・留学中の単位認定の緩和

**財政支援
学生支援**

様々な課題はありますが、今後も文理が離れたキャンパス間や、地域、企業、高大を結び連携する際にオンライン教育は欠かせないでしょう。

■ 情報提供：

休憩をはさんで賛助会員2社からの情報提供がありました。

「ニューノーマル期における新たな講義スタイル ～『ライトボード』のご紹介～」

株式会社早稲田大学アカデミックソリューション IT推進部 コンテンツ企画チーム

チームリーダー 太田 友美 氏より

弊社の商品、「ライトボード」をご紹介します。講師が透明な板に板書するもので、視認性の良いインパクトのある映像を作ることができます。板書のほかスライドとの組み合わせも可能です。人物と説明資料を一体化した映像が撮影できますし、後ろを向かずに正面を向いて板書ができるのも特長です。動画でも紹介しておりますのでご覧ください。

[【ライトボード～新しい授業スタイルの提案～】ライトボード紹介PV・大学総合研究センター - YouTube](#)

早稲田大学だけでなく、日本私立大学連盟のオンデマンド研修コンテンツ等でも採用されています。学生から「板書内容が見やすい」「板書の過程がわかるのが良い」「臨場感や緊張感がある」と好評です。見学のほか、貸出、デモも可能ですので、興味のある方はぜひご連絡ください。

「多様な授業運営にかかせないLMSのご紹介

FUJITSU 文教ソリューションCampus-Xs 学修支援」

富士通Japan株式会社 Public & Education事業本部 P&Eビジネス戦略室

立石 さや香 氏より

Campus-Xs（キャンパス・クロス）は、対面だけでなく、オンライン、オンデマンド、ハイブリッド、ハイフレックス等、様々な授業形態でもワンストップで利用することができる学修環境を提供します。マルチデバイス対応、協調学習を支援するグループワーク機能、学習進捗管理、豊富なテストの出題形式、学習状況のトラッキングとレポート等豊富な機能を備えています。ユーザー会もありコミュニティサイト内での情報提供やイベントの開催も行っており、学生と教職員双方の課題を解決するソリューションとなっております。全学的な教育基盤として授業前後・授業中をトータルにご支援いたします。

[FUJITSU 文教ソリューション Campus-Xs（キャンパスクロス）](#)：富士通

■意見交換：

担当別に3グループに分かれて意見交換を行いました。オンラインでも中継し、オンライン参加の方に視聴していただきました。その後全体へ発表しました。

Aグループ（教学系担当者）

オンライン授業の現状と課題について情報交換を行いました。例えば学内の申請時の流れは、大学によって、学部が決めていたり、学長の承認が必要だったり様々でした。また、60単位制限の管理方法も議論になりました。山田先生がいらしたので、「実験や実習でオンラインの方が、満足度が高い」という調査結果について、詳細を伺いました。

Bグループ（教学系担当者）

オンライン授業の現状と今後の動向や、現状のLMS・オンラインの授業形態の問題点について意見交換をしました。オンラインの比率のほか、どのようにそれが認められているのかも情報交換しました。大学によっては、オンラインとして提供する科目の基準があるところもありました。教室が不足している大学が多い中、今後、オンラインを推進していくという意見もありました。

Cグループ（情報システム系担当者）

主に、環境整備、保守運用の話をしました。ほとんどの大学で、LMS、教室の整備、オンライン会議の整備は終わっており、現在は合理的配慮等から、細々とオンラインでの提供をしている大学が多かったです。困っていることとして会議ツールの値上がりや、保守運用の負担等が挙げられました。また山田先生に、教員の目線でICTの環境等を伺ったところ、「新しいツールが出てきているのは良いがそれに対応するのは難しく、知識やサポートが課題」とのことでした。

■キャンパス見学：

現地参加の方のみ9月開設のラーニングコモンスなど竣工間もない新棟をご案内いただきました。

■閉会：

結びに千葉工業大学の山崎氏（事務所システム分科会運営委員会）が閉会の挨拶を述べ、お開きとなりました。

【 分 科 会 の 様 子 】



4. 参加校 [20校37名] ・参加企業[8社42名] ・参加総数[79名]

亜細亜大学 [1] 関西国際大学 [3] 共立女子大学 [3] 上智大学 [1] 湘南工科大学 [1] 成蹊大学 [4] 清泉女子大学 [2] 摂南大学 [1] 大東文化大学 [3] 千葉工業大学 [1]	帝京平成大学 [1] 東海大学 [2] 同志社大学 [1] 東洋大学 [2] 東洋学園大学 [2] 日本女子大学 [1] 福岡大学 [1] 武蔵野大学 [5] 流通科学大学 [1] 流通経済大学 [1]	アシアル株式会社 [1] 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション [5] チエル株式会社 [1] 電子システム株式会社 [1] 東京コンピュータサービス株式会社 [1] 東通産業株式会社 [1] 有限会社ハーティサービス [1] 富士通Japan株式会社 [31]
---	--	--

5. 所感（事務システム分科会運営委員会）

今回の事務システム分科会では成蹊大学様で同志社大学の山田先生にオンライン授業の今後の展望等についてご講演いただき、その後山田先生を含めた意見交換会を実施しました。また、賛助会員2社からの情報提供も行われました。山田先生のご講演ではオンライン授業とは何かということから、オンライン授業現状と課題を日本と海外の大学を比較してご説明いただきました。日本だけに留まらず、海外の大学での情報を資料を見ながらご説明いただいたことで、今までとは別の視点で今後の活用や展望について検討することができました。

今後は現在よりもオンライン授業の割合が多くなることで、リカレント教育や遠方からの授業も可能になり、授業方法や授業の進め方等も変化していくことになると改めて認識することができました。

意見交換では、情報システム系と教学系でグループをいくつかに分けてテーマに沿った議論をし、それぞれの大学の現状と課題を共有しました。意外にも各大学での課題等も共通している部分が多く、他大学で結果が出ているソリューションや運用等は今後も積極的に共有し合い、自身の大学にも適用するしていくべきだと感じました。

オンライン授業についてはテーマとしても分かり易いどの大学も今後必ず増加していくと思われる。CS研運営委員として、今後の大学の未来を見据え各大学との連携を図り、より良いソリューションを提供する場を設けていきたいと思えます。

【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

◆「CS研・IS研情報交換サイト」について

CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。
（サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

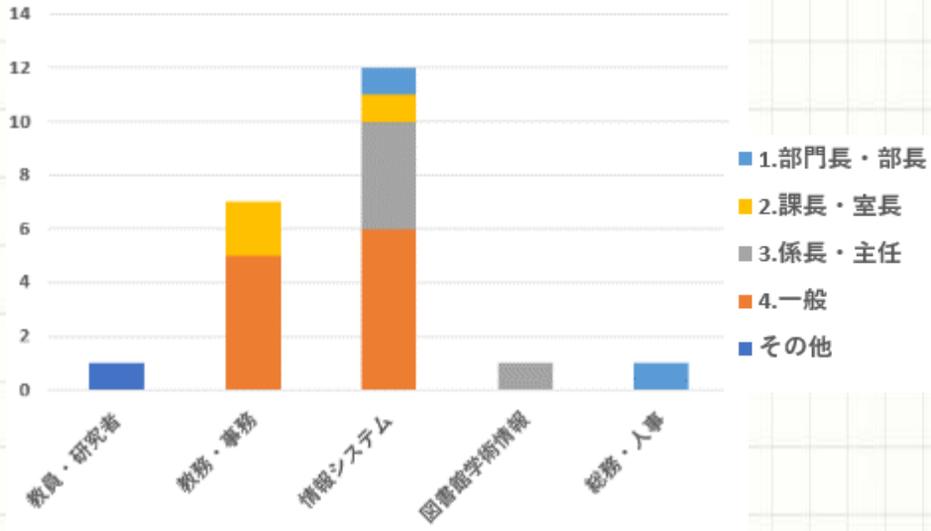
※利用アカウント申し込みサイトURL：<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/102857>

【連絡先】

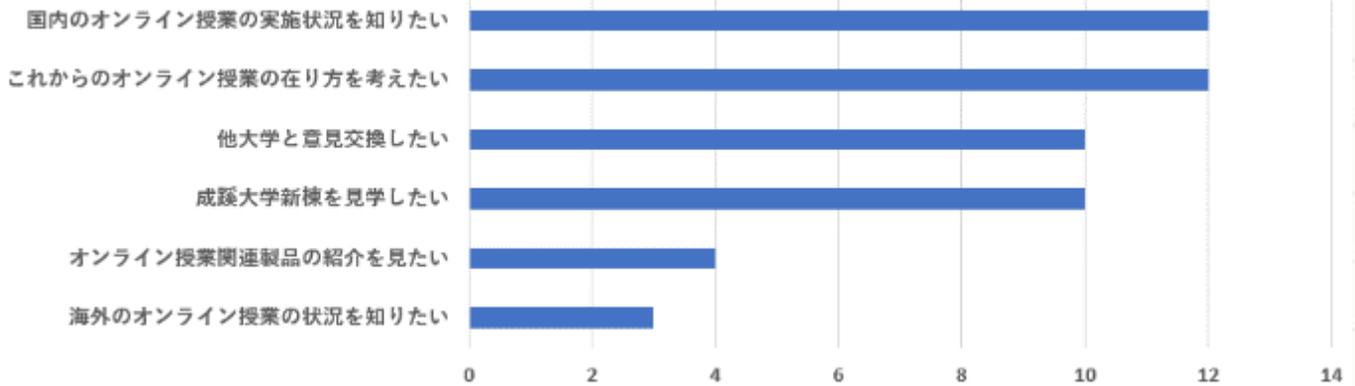
私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー
富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内
E-mail：contact-csiken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：22／37（大学関係者のみ）】

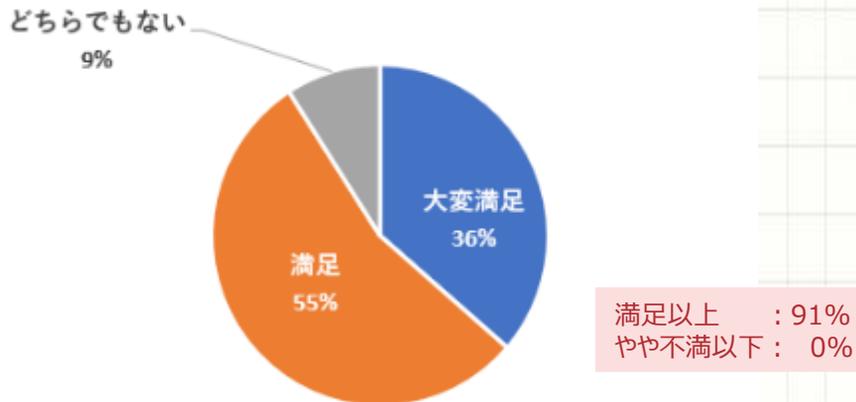
■担当業務と役職について



■参加した目的について



■本日の分科会の全体満足度について



■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

【講演】

- 世界的にオンライン授業に対する考えであったり、オンラインをただ対面授業の代替とするのではなく、オンラインの利点を生かせるような環境づくりを今後考えていけたらと思う機会となりました。他大学の現状や考えについても触れることができました。
- オンライン授業の現状と未来がイメージできたから。
- 様々な観点からの包括的なお話を伺えて大変勉強になりました。
- アンケート等の調査結果の報告が中心で、オンライン授業への取り組み事例等の話は聞けなかった。
- 授業演習にて、オンラインの活用が増えていることが大変興味深かったです。

【意見交換・情報共有】

- 他大学の皆様と現在のLMSやオンラインの現状についてお話をお伺いすることができ、大変勉強になりました。もう少し多くの大学様と意見交換をしたかったです。
- ライティングセンター機能については、まだ立ち上がったばかりだと思うが、試行錯誤中でのお互いの知見等を情報交換したい。
- システム系の分科会ではなかったため、情報システムの方は少なかったです。少ないが故にみなさんといういろいろお話をできたので大変貴重な時間となりました。
- 他大学さまとの意見交換とても貴重な時間となりました。
- 他大学の抱えている問題を知ることが出来た。

【施設・見学】

- 最新設備のラーニングコモンズで学生がリラックスしながら活用している場面を見学することができたから。全体的なデザインの統一感、グリーンと木のぬくもりが感じられる空間であった。
- 施設見学ができたため
- 成蹊大学の新棟(ラーニングコモンズ)を見学でき、大変参考になったため。
- 新棟の見学が目的でした。
- 有用な情報をいただけて、新棟も参考になりました

【その他】

- オンラインでのディスカッション参加はそうとう聞き取りづらかったです。。。同じ会場で複数のグループが話し合う場面では厳しいかも。マイクから遠い方の発言は聞き取れず、他のグループの会話がノイズで常に入ってる状態でした。

■今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

- 流行りのDX大失敗事例集
- Campus-Xs
- 学生ポータルの今後
- 新棟や新設備などの見学が今後もありましたらぜひ参加させていただきたいです。
- 生成AIについて大変興味がございます。

■CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 初参加でしたが大変参考になりました。会場参加でしたので、親睦会にも参加したかったのですが、フランクな飲み会等があれば向いてでも参加したいと思っています。
- 貴重なお時間をありがとうございました。講演と施設見学と二部構成でしたがどちらか片方だけの参加ができると大変ありがたいなと思いました。
- 現時点で要望等はありません。今回は貴重な機会をいただきありがとうございました。
- 学習環境を整える情報システムの視点で他大学様との交流を持つことができました。
- 実務に入り込む形で話してほしかった。
- オンラインも同様に、大学の施設見学が出来ると面白いのではないかと考えます。
- 本日は、参加させていただきましてありがとうございました。